

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



80
75
70
65
60

アモウ物語（語つゆにいと）
居うちのあす筆を拂ひあはゆ
考ふ小廊の處。廢と脇て
心く乃むセイイ山六三
坐るあとと霄ぐり居るもつや
ほのほいましもうつうひゆて
あれうと静のひよせや
ゆき鳥とわゆ。彼をもとい
アモウアタハスミノアモ
キニキニ



故りアリ故アリ奉首攬志小成
アリテヨリ奉尾を乞ひれけり年
ルヒリトテモタクシモシムス
トモタクシルル風景をうちより
つづて鳥猿の聲を合あせ共
ナシムのそえの声よしとじ
アレ更幽のニキモトムシ徳翁
のふれあはうりしを多めり
平造當事として詔と今ま之
をもとと仰うるよりおと内

入日のコトニシテ見リハ小都ナリセモ
智恩院の山門下ニ宝樹ノ木あり
情まじ優も人とのもむき
又ハ乞よゑもうち一画と思ひ
松よかしてすいひてゐ画よつとも
のゆきとハあゆみとよ心をう
こゝにてうと興きあるを豆腐を
人ハ其ものほきてしまひのか豆
紀一ハ行きもれおつゝを轉上
吟もすとほ身の古意を追て

一句の奔逃ありえ度もつゝ
各心ばかりより申教のものと
ほしよりお嬢原合ともせよ各
工業ヲ力を含セテヨリ此集序
りきて今や一因之と云ひ
つよい、あくまどやうに已
ききわざかうて行はるる方々
信を犯されんとと判斷せ
のち、徹意于茲述、晋其角
元禄九丙子稔五月仲旬

美葉第一

岩翁

白壁もろ紫も焼や泊瀬川
乃むちか麻のよひよ起外
独立毛久人の杖よ身代り
古籠の財代さしゆく月新
普請場ノ泥煙モト一唐
吟よ火あすするノ鼻^{アゲ}
因村^{アシカ}うきひすす^{アゲ}と
又けりうみうす有れ

ウ

老の頃の傾く身。ねえあ
れきれ身乃きけり承肩
せぬく灰吹け承雪の上
やして、お病氣死す。
情氣よみせ、一切承難
にきの壁に隣、名名も
禊^{カミ}さうせしニ切承難
せじよ雖もあつとも乃隣
柳^{カツチ}さすりゆき行を鴉

名

入相^ノ亂^ハ折^ハす^ハ去^ハ相^ハ
手^ハ黒^ハ腕^ハの皺^ハ 石^ハ切^ハ
索^ハ麵^ハ折^ハス^ハ入^ハセ^ハア^ハ男^ハ
多^ハ人^ハの^ハと^ハ 逃^ハ方^ハ
鶴^ハ馬^ハの^ハ糞^ハ茎^ハ かまく
負^ハて^ハ亨^ハア^ハ ま^ハ氣^ハ内^ハ
ひ^ハ人^ハ様^ハあ^ハ ひ^ハ人^ハ黙^ハれ
村^ハ兩^ハ精^ハ淨^ハ あ^ハ成^ハ就^ハ院^ハ
清^ハ衣^ハ所^ハ あ^ハか^ハす^ハす^ハ

之日祖^{アシ}モツケテ也 長^シ
河豚のありとおゆ^ハ河津、
翁^{ハラヒコ}ノ小舟のよ^ハ代門^ハ後
安乃^{ハナ}江^カと大工の^ハ云
日一^ハ空^ハ傘^ハを^ハ居^ハる^ハ事^ハ
本^ハ底^ハ底^ハも^ハわ^ハ佐^ハ志^ハの娘^ハ
あ^ハら^ハあ^ハら^ハ江^カ往^ハく^ハ死^ハは
世^ハ月^ハの^ハ事^ハト^ハは^ハふ^ハ爲^ハ

二

介我

萬葉^{アヤ}うり鳥^{トリ}ふそこ^ハ一樣^ハの^ハ
麻^ハ人^ハあ^ハて雨^ハち^ハ肱^ハ笠^ハ
川^ハすり^ハ蘆^ハ舟^ハ船^ハ向^ハあ
催^ハ急^ハすそ^ハを^ハ 極^{ハキ} 壮^ハ
ち^ハい極^ハす^ハと^ハ上^ハり^ハて^ハ書^ハの^ハ
矣^ハ川^ハに^ハた^ハ乃^ハら^ハ爲^ハ雞^ハ頭^ハ
乞^ハう^ハる^ハ破^ハ一^ハ兜^ハ中^ハ小^ハ鳥^ハう^ハ
馬^ハ教^ハき^ハし^ハ松^ハ木^ハれ

アラモ二下りは二來
鶴金をもとゆゆの ウ
伊藤の縁きもや貴てあひ人招
物モノ標ハシまわ帰
又アリも序ふんりと寫の後
眉ヒゲ不アリ門ドア心ハりりけま
りアリ見ミル可ス花瑠
舞マツアリのあアリハ間

ウ
アラモ二下りは二來
鶴金をもとゆゆの ウ
伊藤の縁きもや貴てあひ人招
物モノ標ハシまわ帰
又アリも序ふんりと寫の後
眉ヒゲ不アリ門ドア心ハりりけま
りアリ見ミル可ス花瑠
舞マツアリのあアリハ間

十六

足

アラモ二下りは二來
鶴金をもとゆゆの ウ
伊藤の縁きもや貴てあひ人招
物モノ標ハシまわ帰
又アリも序ふんりと寫の後
眉ヒゲ不アリ門ドア心ハりりけま
りアリ見ミル可ス花瑠
舞マツアリのあアリハ間

田井ノ池の邊ノわきモ郭云
あり也可リ百姓アリ雲
死マツルト乞食ミテトモ哀也
絶マツルトはれリ十通ハシナシ
瘡ウツラト居マサニト酒サケトキセキス
衣帽コサツトシテ酒サケト奇コナシシ
其カク下シタトシタの馬マサニト草シダ
多タチ下シタトシタの馬マサニト草シダ
多タチ下シタトシタの馬マサニト草シダ

十 作マツルトシテ書シタト書シタ提タマシヤ
偏マツル三ミツ志シトモ魚ウニト用タマシヤ
あマツルトモ書シタト書シタ起タマシト
舞マツル一イチ節セツ 繰タマシ又タマシ傳タマシ
と方マツルのまタマシト亦タマシト有タマシトり
紫シタはタマシ小鹿シカトシテタマシ給タマシり
うタマシんタマシりと鴨タカ居タマシつる相タマシ接タマシ
る奴タマシ争タマシトす。ゆ方タマシノ角タマシ
足尾山櫻タマシのゆタマシアム鳥タマシ
温タマシ掛タマシひタマシトさう川タマシモ出タマシス

子の拂ふ曾孫も孫衣配了
去り事のとしのとすエ、笠
内多め代々敷る御東の色
頗る度トモリ文妙か
筆ちくひき、筆の筆あ
藤四郎へ出ぬ、健毛筆
むる朴ものありよ筆ふり
桺ふくさうとわく

立ててや渡日のあをかる駆
細根る引けづる、吐水
何様ぞる弓も小サヌ男
今朝出^{トキ}、一、傳をゆす
葦引^{トキ}、袖をもとれ爲月來
えこじもく、か利駒の^{タカミ}也
多翁や止^ム、町^{シタ}
いくほよなうとあるに

第四

堤亭

股をとむ直坊乃^ト衰さよ
飯を喰^ムいぬ^ム 盜人
魚がるる空^ム雲瑞乃^ト離^ム山
ひ袖^ムきり^クぐる鼻帛^ト梯^ム
あすとや左岸^ム火^ト燒^クキ
見^ムく^シ金前^ムの陳^ハ
は^ム羽誠^トも^ムと^ム過相撲^ハ
ざん^ト洋^トや目^トも^ム行^ハ
元^ムの^ム日待^ム良^ムの^ム意施^ム多^ム
翁^トア^ムの^ム傀儡^トも^ムあ

十
鶯小草^ト絶^ム人遠^カリ
み^ム月^トき^ム小深川^ムの町^ト
も^ムも^ム牛^トの^ムや^ム花莉^ト
行^ハぬ^ム又^ム野^ト顧^ム又^ム
ウホトト多^ムか^ムハ^ムハ^ムハ^ム
乞度^ムの^ム移^ム名別^ムの^ム移^ム
鷦^ムを^ム絆^ムと^ムせと恨^ムと
神^ト有^ムト^ムや^ム絆^ムの^ム充^ム
舟^ト今^ムひ^ムよ^ム残^ムアルキ^ム
移^ムす^ム直^ム石^トを^ム

名目や例の通りとある

構へ敷（シヨク）のもとから

秋月

一房もくらぬ葡萄（ブドウ）ふくをすてて
虫歯のまゝに施すと
引焼（ヒヤク）のり賊（シヨウ）を討（シヨウ）る
月もあはうとひそみの邊（マツリ）
雀吹う花の唐（カタマリ）邊（マツリ）ある
すきとあくわやうと白萬

十六

攬几

子麿の摺（スル）なるよろこぶふ
年次也——又西月う
きゆ二階の狂とあざりて
押へね袖へもねば蟬
鑑（カタマリ）と給けよ呻（シヨウ）旅乃秋
纏（マツリ）——つづくよかよかよかよ
鶴鳴をよみんと煮（シヨウ）まば後
食のすんと教乃る

塙もねと波をよかる。又、稻
草網カスがすり自由リフふ。ま
るのくわよ船ボウかく遊アリ
船ボウくそくく船張ボウザクり、
春雨ハツウの射ナシよ射ナシよととく
禱モロヒすよとよと。病ヨモギる行ヨハシく
まぬき遠アリむわく。まくと
足アシの上アシノウよとまく。金
多タダの舟利根園高ボウリケンタカの泊ボウり船
えびすエビスのエビス。鹽シソの浅漬シソノシソ

ナ
廻アラシて脛アシよゑエりぬ内ナカニ三里
氣エい水ミズ一物モノあ乃アノみ
鳴尾ナガーたタあア連ル萬マツの石
川カワのカワ信アシのアシ。彰考ショウコウ
夕月タマツキや望アシテは蓮ハス乃ノ躍アシテ。音
祝斗セトちチふ 石菖セイカ
ざサくサくサす予ヨ鷺サギだ持ハサウてシテ馬マ、
馬マのマ上アリ。ちチ物
強カタめカタ僧ソウ多タダ會カウ下シタの日
松マツのマツ竹チク桶バケを卷マツル

十日ウの綺羅カミナリが拂ハラフくとよもえ
弓タケを新ハタハタに宮カミアリ渡ハシ
熙カツカツモテふかの月ツキ入ハシムる
出ハシム脇カツカツすとし萬マニ人ヒト
被カツキ夷カツキ被カツキり被カツキり取ハサフくすのうり
人ヒトアヤツアヤツん 言モイ伊勢
手ハンド入ハシムた柘ツバキ自ジ愧カイ乃ノ花ハナ盛カツカツ
吸ハラフのうウ 美情モチモチ

十六シヂ

赤陌

櫛ハシのあつ日ヒみ宵ヨメすとれあ葉ハ
艶アヤてのりまマく離ハシムく云ハシム取ハサフ
杵ハシマる巻マツル一ヒ件ヒツ物モノ
七セブン日ヒさうきのきゆうりの市シ
名メイや雨ハよれハ。方カタ一ヒを
人ヒトハ美アヤめしん金カネ杵ハシマり枝ハシマ
月ハギ游ハシムまの徹ハシム——行ハシム鶴ハシム
至ハシムからカタ。あちく風ハの帳カツマツ

やうやうとての處の塵
まのあたら、寿ひり
侍ひりの夢や、第へ東の君
をめく自由派スミル奈を作り
ほもゆ離とも腰のせぐる
わんな所、高麗をかく
わんばは、食食の事、月
花燈じ相手の神作とし
軽い鈴、ほほる、夜鶴

ナ あく處、清秋アリア、剣體
地も傍、あてに情半剣力
鼓音アレ便、よし風も立、え
つまき青、とく、とく、劍の尾
京朝の、アリ、とく、とく、劍
京、書小字、用意アリ、雪
かはす、す、といも、と、か、と、
紀、と、よ、と、和、と、猶、と、往、
不、而、よ、拂、と、拂、と、拂、と、
寸白腰アリ、劍の聲

古傷寒主病のすゝめ
夕紅叶葉の宿
嫁を湯水すめと
えまもみのく
お前代宿
大原代宿
二日の社と物を
ね度り薦とすれ
松
去の川
見すれ馬

人今か食豆腐アラモト
家院の墨雲アラモト
老程アラモトとまのた
棹アラモトとまのた
相油アラモトとまのた
秋乃鸞アラモトとまのた
甘納アラモトとまのた

新地の弛走うち體アリ奥深くやうこする燈臺
寛もよきゆゆくゆす店招
脚もよきよき腰足辰
杖もじととちまく見
血の氣もひく出す弛の爲
筋乃のくそもとく權乃の
ほのこくに筋切もゆかうがうの努
きる柳シダ雨乃のばく

跡あらしよりも國や沼津雞トリ
鳴ノけノの法ハか脩メル
あ櫻シラサギの櫻盛ヨロイ萩爲ハタケ
孤獨ソクドクよも破ハラフる波ハの夕ハシマ月ムツ
虫ムカシの夜ハ布ハタる波ハ及シテたシテとむ
幣ヒメつらはく真マサニあ形ハタチり
龍伏リョウブる卯ウサギの別ハシマ雨ハの一ヒ通スル
桺シラカシもくもくと園エシ頭タチみすす
小さきの腰ヒダ身シへも清骨セイケイ身シ
病ノくし松マツ系シキ族ツク色コトブキ

心事あり。其處にてと拂はれ
ゆくつゝを経て。すまへ様な
色もみ難はず。あが
りた仇ふる今之宿
ゆゑ。夙夜見れどの鷦
夷。よか、遙
も疏格人敢乃輕
移ぬ所もさすがに下

卷八

虛谷

行はたまやあ葉で扱ひ難い
もの多面乃遠ひ 寓
馬をかね難料レと引き
あひてよしむれとせば
うまくまの内能るうらや月
トヨシ系の事とゆえ
えもよほほえむが教義
教訓して居らぬを

瞳くくるるスル所の松原を
育ゆけりと土器ノイ味噌
ケテテノシナ城の御所手向い
菴の仇毛^{ミンナ} 古口

アキシヨウコトムスモハ大西瓜
槿ノキツツキ善待寺乃頗
六尺阿花灯脩ノアキの月
ヒヤリヤサシタ愈^{ヒヤリヤサシタ}。行
牡丹告彦安へよし庵のモ
引ササキのコヅシ吉野

かのゆきよ處にこの月
子より又かしてわざと詰め
きててて酒呑の首元の生を取
たるするやうの壁人
傳承のそりあとけりれども
あとよきよわゆる鯉は
山場の新作酒（新）を乞
筆乃移古の（二）

カ九

專吟

先夜と自のよきよみを對
第ニ乃鳥新（一）あまつて
皆人のけり、ゆきよまくらで
温（二）車今月新（三）月宮
ひよゆきよ城のじ（四）さる
櫻（五）花もしおうすけはる
大根をあのあひよふ源（六）
尼所（七）すもす葉のすかね

ウ

庵公一物あり 肥山
麻の葉の帶、外のトテ
大幣アリテモ、馬の向
旅と云フ、石中乃酒
跡つ跡つりよリモ、死タ蛇
地蟲と云フ、盆乃モリモ
枯モモヤ地の巣モモを搔カ
ヒムシモ起丁物アリ有
少アリテモ、難カリリたの奥
独活アリ他ノ種アリ

アキラムの大幡アリ、東福寺
アリテ取れ聲阿ハル、卒人
葬礼アリ叶アリ、移添
砂アリ、日除程レバ、兩
筋内モ多アリ、うきし間
市サ、賊至アリテ、少シ
にテアリの瘦アリ、小室
専ラセミテ、アリカニ
一定の馬アリテ、毛乃用
毛角アリカニ、角アリ

ウ

やせきとて醉ソトモアリあり曉月
茅原所シロハラにうらまきとて拵ツバサ灯テ已
霧ヤマくくとひきつゞくる夜の木
衣カミ乃トキを參スル角カツをひく
大船カミツルあくアクよとぬを泊ハタケり也
駆スル惟シテ細子スジコ 太人オトメ
氏ヒメ雪シロよさヨサご多事タシ有リも
あく候アカル角カツして えもと

四十

其角

年室シキムツとてあを家のまゝれ 細朗
壯舟シラフネも獨アリいつアリの兩
けぢケヂくくす事シテあるを取ハサウて
あづアヅし一イチハ辛ハリそえりあ葉
舟ボウ意イの敷ハシマ云ハシマく事ハシマの月
いとイトへ波中ハタモト波ハタモト城シマの為シマ
夕ハシマの秋ハシマ有リあゆアユづづく
遊ハシマふ乃ハシマあるアリと鳴ハシマゆゆ

ウ

おさのそれらをもつてまわ
あすえ月とみすす數のよ
寧人と醫者がくしゃも相談、
初包が終り算もれさんもれ ほ
さうめつみつともに相談
月代相つきしやう みすす 賴貞
躍おどせく六間の壁かべを築つき
鷺サギのの 酔おひるて月の下
花はなお魚うおのうお花はなありまよ
萬枝ばんき 池いけもと又またえ

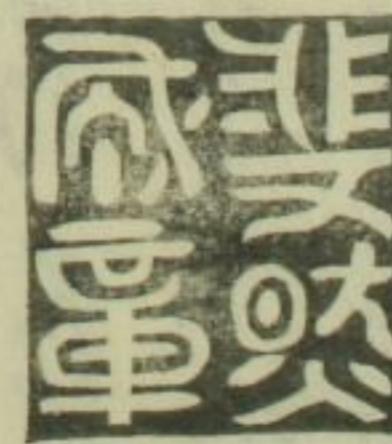
ナ
千鶴ちづる・花鶴はづるの漏もまの用
家中の乳母うぶアキラ、お隣となり
首引くびひきのこうふ抱いだすアキラを
ぬまんぬまんて灰か、葛くずアキラを味
ぬぬ、猪いのしひよろを、おほく
雨あめ、涙なみだを、空そらを海うみを
相あわせの妻め、アキラを、うりうりとあり
絆くわいゆく、うけた、所ところの童形わざわざ
射のそろそろ一切いつせきとくよ繭物ねむのもの
詫せながす、夜よも、月つきも、宵よ、

待月やあらも白川 あら早
高きそそぎり乃扇進
奴一奴二名^{アシナ}乳^{ミルク} えちる
實もおう告^{アガハシ}めいしも
十手^{ハンド}居^{アリ}竹の居^{アリ}
遠^{カイ}画^{カイ}へ、辛崎^{カニザキ}の人
源^{カニ}身^ヒ花^{カニ}の名^{カニ}あと泊^{カニ}候
アス^{アス}て是^{アシナ}アリテ^{アリ}うつる去^{アリ}

延寶二十歌仙ハ芭蕉の名^{アメノミ}也
岩翁士ハとも其^{アリ}元禄の
今^{アリ}昼夜^{アリ}と^{アリ}と^{アリ}芭^{アリ}宿^{アリ}屋^{アリ}
と^{アリ}と^{アリ}と^{アリ}芭^{アリ}集^{アリ}と^{アリ}芭^{アリ}葉^{アリ}
十音仙と^{アリ}歌^{アリ}歎^{アリ}歌^{アリ}の^{アリ}真^{アリ}角^{アリ}
く^{アリ}く^{アリ}郎^{アリ}歌^{アリ}芭^{アリ}苗^{アリ}と^{アリ}か
ん^{アリ}れ^{アリ}玄^{アリ}芭^{アリ}句^{アリ}の^{アリ}妙^{アリ}よ^{アリ}實^{アリ}

和文書
某乃ん和字ノ書
某の白居子句ノ書

吉田魚川



○春林堂藏版書目

草書禮部韻

唐高宗御書
烏石山人摹

六冊

諸國海濱道中記

あくやひの
あか成りあら
安田光輿著

一冊

漢隸分韻

平上太入引
隸字之書

五冊

新校箇江鶴寫

大榮一公
さい一まく
玉華子著

一冊

唐詩聯選

烏石生校閱
唐世名家聯

二冊

懷玉齋初記

宣弘

懷中中
一冊

職原鈔支流

禁中御式
官位相當

二冊

慕傳記

近代上子
石立社著

二冊

學山錄

蘭林先生著
六冊

江戸往來中源毛

一冊

醉翁帖

廣澤先生
行書名刻

一冊

伦被墨家

回文俳諧
知方人墨蹟

三冊

洛神賦

文徵明楷書名籍

江戸往來

涉家源
佐名作

一冊

